しらさぎ

求めて学ぶ　考えて行う　自ら鍛える

目黒区立第八中学校
学校だより　NO.13
（通巻144号）
平成２９年（2017）
９月１５日（金）

『次期学習指導要領と授業改善プラン』

校長　飯野　博史

前期期末考査が終了し、答案を返却しました。生徒には見直しをしっかりとして同じミスをしないように指導しています。また結果をもとに、良かった点、悪かった点を振り返り、今後の学習にいかすように伝えました。ご家庭でも話し合ってみてください。

４月１３日（木）に目黒区学力調査を実施しました。担当者を中心に、調査結果を分析し「授業改善プラン」を作成しましたのでご覧ください。ホームページにもアップしました。

今回の「授業改善プラン」は、この３月に告示された「次期学習指導要領」の目玉のひとつ、「主体的・対話的で深い学び」を先取りする内容となっています。

次期学習指導要領では、社会において自立的に生きるために必要な力「生きる力」を育むという理念のさらなる具体化を図るため、次の資質・能力が必要だとしています。

① 生きて働く「知識・技能」の習得
② 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成
③ 学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性」の涵養

そして、これらの資質・能力を身に付けるためには「主体的・対話的で深い学び」（アクティブ・ラーニング）の視点で授業改善を進めていくことが記述されています。

「主体的・対話的で深い学び」とは次のように捉えられています。

① 学ぶ意味と自分の人生や社会の在り方を主体的に結びつけていく「主体的な学び」
② 多様な人との対話や先哲の考え方（書物等）で考えを広げる「対話的な学び」
③ 各教科で習得した知識や考え方を活用した「見方・考え方」を働かせて、学習対象と深く関わり、問題を発見・解決したり、自己の考え方を形成し表したり、思いを基に構想・創造したりする「深い学び」

八中では次期学習指導要領について教員が理解を深めると同時に、先行して実施できるところは積極的に授業に取り入れていくことにしました。具体的に次の視点を大切に授業を進めていきます。

① 生徒が興味をもつ教材・題材と魅力的な導入（日常生活・社会生活との関連）
② 課題解決的な学習・既習事項を活用する学習
③ 学習の見通し・本時の目標の明示
④ 自分の考えを発表・交流する機会
⑤ 「できた」「わかった」の実感、「できたこと」「わかったこと」の振り返り

詳しくは「授業改善プラン」をご覧ください。

授業改善はもちろん大切なことですが、充実した授業が成立するには基盤となる信頼関係が必要です。次期学習指導要領には次のように記されています。

「学習や生活の基盤として、教師と生徒との信頼関係及び生徒相互のよりよい人間関係を築くため、日頃から学級経営の充実を図ること。」

学校経営方針である「信頼関係を基盤とした心を育てる学校づくり」をこれからも推進していきます。

平成２９年度

目黒区学力調査と授業改善プラン

Ⅰ　「目黒区学力調査」の概要

Ⅱ　平成２８年度「目黒区学力調査と授業改善プラン」の検証

Ⅲ　「目黒区学力調査」等に基づく授業改善プラン

・本校の授業改善に向けた方策（学校全体）

・第１学年～第３学年授業改善プラン

・実技教科授業改善プラン

平成２９年８月

目黒区立第八中学校

Ⅰ　「目黒区学力調査」の概要

１　調査の趣旨

目黒区立小・中学校の児童・生徒に「学力調査」を実施し、児童・生徒の学習状況を組織的・継続的に調査・分析するとともに、各学校の指導法やカリュキュラムの改善・充実を図り、学力の定着・向上を目指す。

なお、本調査は、目黒区立小学校の第２学年～第６学年の児童及び目黒区立中学校の全学年生徒を対象に実施された。（原則として、特別支援学級に在籍する児童・生徒は対象としない）

２　調査の内容

⑴　調査の対象学年及び対象生徒数（本校）

	１　年	２　年	３　年
対象数	８０人	６６人	７１人
実施数	８０人	６４人	６９人
受検率	１００％	９７％	９７％

⑵　調査内容と実施教科

①　学習指導要領に示された目標の達成状況（観点別学習状況）

②　生徒の学習に関する意識

１年　意識調査、国語、数学、社会、理科

２年　意識調査、国語、数学、社会、理科、英語

３年　意識調査、国語、数学、社会、理科、英語

⑶　実施日

平成２９年４月１３日（木）

Ⅱ　平成２８年度「目黒区学力調査と授業改善プラン」の検証

(1)　成果

今年度の結果を分析すると、２，３年生に関しては、基礎・基本、活用ともに全教科にわたり目標値を上回る平均正答率であった。これは、「学習カード（振り返りシート）」の活用、ＩＣＴの活用、習熟度別少人数授業によるきめ細かな指導、授業規律の確立など、基礎的・基本的な力を育む環境が定着してきたことによるものと考えられる。また、グループ学習やペア学習を意識的に設定する、課題解決的な学習を設定するなどにより、活用する力も身に付いてきたものと思われる。さらに、「朝の読書」により、落ち着いた雰囲気で授業につながることも学習効果を高めている。

数学科と英語科における少人数授業では、習熟度別による指導を主とし、教科学習室の運用が効果的になされており、きめ細やかな指導も伴って、基礎的･基本的な力の定着につながっている。

(2)　課題

各教科とも、基礎的・基本的な学力については、目標値を上回る数値であった。ただし、一部の教科において、思考力･判断力･表現力といった活用する力が目標値に対して下回る数値となっている。習得した知識を活用し、探究する力に課題があると言える。一方的に教師が教え込むのではなく、考える時間を確保したり、お互いに交流し合ったりする時間を確保するなど、言語活動を充実させ、思考力・判断力・表現力等をさらに育成する視点での授業改善が必要である。

また、生徒たちが「やってみたい」と思うような課題を設定し、わくわくする「楽しく分かる授業」を展開することが課題である。それには単元導入時に、日常生活や社会生活との関連を図り、興味をもたせていく工夫が必要である。

「何を教えるか」という知識の質や量の改善とともに、「どのように学ぶか」という学びの質や深まりを重視するといった視点からの授業の質的転換を図っていくことが課題である。

さらに、各教科の意欲、理解力に個人差が見受けられる現状を踏まえ、生徒一人一人に対する個別の対応も課題である。学習意欲を高めるために、生徒一人一人に対して、家庭との連携、学習指導員・特別支援教育支援員も含めた全校体制での取組が必要である。

１年生については、学力の２極化がうかがえるので、学級経営の充実、より良い人間関係の構築なども含め、多角的できめ細かな指導に努めていく。

Ⅲ　目黒区学力調査等に基づく授業改善プラン

本校の授業改善に向けた方策

① 本時の目標や学習の見通しを示し、生徒に身に付けたい力を明確にする。

② 授業の中に、意識的に思考をする時間を設ける。教師が一方的に授業を進めるのではなく、考える時間を必ず確保し、習得した知識・技能を活用した授業に取り組む。その際、個別指導、グループ別指導、習熟の程度に応じた指導、興味・関心に応じた課題学習など多様な指導ができるよう工夫する。また、定期考査においても、思考し、表現する問題を工夫し出題する。

③ 「楽しく分かる授業」を目指し、課題の発見と解決に向けて「主体的・対話的で深い学び」を取り入れた授業を工夫する。学習内容が日常生活や社会生活にどう関連するか明らかにする。

④ 各教科で「学習カード（振り返りシート）」を活用し、生徒の学習状況を把握する。「できた」「分かった」の実感を大切にし、「できたこと」「分かったこと」の振り返りを確実に行う。

⑤ 数学科、英語科で少人数授業を行う。とくに数学科では習熟度別授業を行い、成果を全教員で共有し、それぞれの授業に生かす。

⑥ 校内研修などを通して、適正な評価・評定について研修を深める。個々の生徒の良い点や進歩の状況を積極的に評価し、指導の工夫・改善につなげ、学習意欲の向上に生かす。

⑦ 授業規律の確立や、朝の読書、校内の環境美化などに全校体制で取り組み、落ち着いた雰囲気で学習ができる環境づくりに努める。基本的な生活習慣や家庭での学習習慣の確立について、家庭にも協力を依頼する。

※　全教育活動において思考力・判断力・表現力等を育成する観点から、実技教科においても授業改善プランを作成した。

第八中学校　第１学年授業改善プラン

教科	区学力調査の結果等から みられる課題	授業改善の方策
国 語	○話の内容を正確に聞き取る力を高める。 ○文法・語句に関する知識を定着させる。	○音声言語の聞き取りの練習をする。 ○聞いて得た情報を書き留めるという練習をする。 ・聞き取りテストを活用し、メモの取り方を練習する。 ・話し合いの活動で情報を整理する活動をする。 ○基本的事項の理解、定着を図るため、復習を繰り返し行う。
社 会	○「活用」の力を高める。 ○「何かを進んで調べること」や「新聞やニュースに関心をもつこと」などの関心を高める。	○図や表、グラフ等を読み取り、「分かったことを文章などで表す、説明する」学習活動を増やし、活用力を高める。 ○資料から課題(問題点)を見つけ出す、課題(問題点)を解決するためにどんな方策を取るかを考える等、「深く考える」学習場面を一層取り入れて、進んで調べる意欲や深く考える態度を向上させる。 ○ワーク等を使い、家庭での学習時間も活用して、「基礎・基本となる知識の定着」を図る学習活動を継続して行っていく。
数 学	○単位量あたりの大きさ・平均、反比例、文字と式の定着を図る。 ○記述問題等の解答の反応率を高める。	○基礎基本問題の繰り返しにより計算力の定着を目指す。また授業の最後に行う振り返り学習で生徒の定着度の確認を行う。 ○単元テストや定期テストで学力がどれだけ定着しているか確認し、必要に応じて小学校で学ぶことがらなどの振り返りを行う。 ○少人数による話し合い・教えあい学習をより多くし、言語活動を取り入れることで、根拠をもって物事を説明したり理由を考えたりする習慣を身に付ける。
理 科	○理科の４観点全てにおいて、知識・理解の底上げを図る。	○授業の中に実験・観察を多く取り入れること、身近な生活に関連したトピックス等を織り交ぜること等を増やし、生徒の興味・関心をより高めていく。 ○実験・観察後の結果の整理や考察について、生徒自身で考えまとめる時間、生徒間で話し合いをする時間を多く取り入れていく。 ○学習事項のまとめとなる単元末の授業において、基礎的事項の定着を図る。
英 語	○アルファベットの識別と表記の定着を図るとともに、綴りと発音を一致させる。	○授業の中でアルファベットの発音と綴りを繰り返し確認する。 ○少人数授業の利点を生かした、グループ学習、ペア学習で英語の基礎となる英単語力の定着を図る。 ・家庭学習としてラジオ英会話の視聴を課題とする。 ・学んだ新出単語や英語表現をノートに練習させる。 ・上記練習ノートを随時点検し、指導・助言を行う。

第八中学校　第２学年授業改善プラン

教科	区学力調査の結果等から みられる課題	授業改善の方策
国 語	○漢字の読み書きの力を高める。	○第１学年までに学習した漢字を読むこと、小学校で学習した漢字を書くことの力を高める。 ・漢字テストの実施、解説・説明の頻度を増やす。 ・語彙習得のための活動を繰り返す。
社 会	○「活用」の力を高める。 ○「何かを進んで調べること」の態度を高める。	○図や表、グラフ等を読み取り、「分かったことを文章などで表す、説明する」学習活動を増やし、活用力を高める。 ○資料から課題(問題点)を見つけ出す、課題(問題点)を解決するためにどんな方策を取るかを考える等、「深く考える」学習場面を一層取り入れて、進んで調べる意欲や深く考える態度を向上させる。 ○生徒が学習に対して興味・関心を一層もてるよう、課題の設定や学習活動に工夫を加え、より多様なものに改善していく。
数 学	○基礎基本の徹底を図る。 ○基本的な計算力の定着等、基礎基本を確実に習得させる。	○基礎基本問題の繰り返しにより計算力の定着を目指す。また授業の最後に行う振り返り学習で生徒の定着度の確認を行う。 ○単元テストや定期テストで学力がどれだけ定着しているか確認し、必要に応じて第１学年で学ぶことがらなどの振り返りを行う。 ○ＩＣＴ機器の活用など視覚に訴えてより理解しやすくする。 ○話し合い・教え合い学習をより多く設定し、いろいろな見方や考え方を身に付ける。 ○授業内における個に応じた学習支援、各テスト後の補充授業の実施、アフタースクール参加への呼びかけを行う。
理 科	○学習事項を生活と関連づけて考える力を高める。 ○科学的思考力・表現力を高める。	○授業の導入において身近な生活に関連したトピックス等を織り交ぜること等を増やし、生徒の興味・関心をより高めていく。 ○実験・観察後の結果の整理や考察について、生徒自身が考えをまとめる時間、自分の考えを自分の言葉で表現する時間、生徒間で話し合いをする時間を多く取り入れていく。
英 語	○語形・語法の知識・理解を深める。 ○場面に応じた英作文を書く力を高める。	○Lesson ごとに学習した語句や文を繰り返し練習する機会を毎授業で設け、その内容を範囲とした小テストを定期的に実施する。 ○ペア練習を通して、いろいろな場面での対話の練習（スピーキングおよびライティング）を行う。

第八中学校　第３学年授業改善プラン

教科	区学力調査の結果等から みられる課題	授業改善の方策
国 語	○場面や状況に応じて適切な言葉を用いて書く力を高める。	○場面や状況における適切な表現を知る機会を増やすとともに関心をもつ活動を行う。 ・手紙やメール等の形式的な表現の基本を理解する。 ・書く事項の場面を増やし、適切な言葉を選ぶ場面を増やす。
社 会	○「活用」の力を高める。	○図や表、グラフ等を読み取り、「分かったことを文章などで表す、説明する」学習活動を継続し、活用力を一層高める。 ○資料から課題(問題点)を見つけ出す、課題(問題点)を解決するためにどんな方策を取るかを考える等、「深く考える」学習場面を一層取り入れて、進んで調べる意欲や深く考える態度をさらに向上させる。 ○班内で討議し、クラス全体でも討議することで多面的・多角的な見方・考え方ができる力を一層高める。
数 学	○連立方程式の利用および図形の証明問題の定着を図る。 ○基本的な計算力等、基礎基本を確実に習得させる。	○習熟度別少人数授業に応じて、定着コースでは、ＩＣＴ機器を多く活用し視覚的に理解できるように提示する。発展コースではより多くの課題に取り組ませながら、「数学的な見方・考え方の能力」のさらなる向上を図る。 ○図形の証明問題では、「相似」の単元において合同の証明問題を復習する。その際、考える時間を確保し、筋道を立てて考えたり発表させたりする場面を増やし「言語活動の充実」を図る。 ○基礎基本の習得に時間がかかる生徒には、学習支援員の方にも協力してもらいながら、適宜学習援助を行っていく。また、アフタースクールへの参加の呼びかけを行う。
理 科	○科学的思考力・表現力の更なる向上を図る。	○実験・観察後の結果の整理や考察について、生徒自身が考えをまとめる時間、自分の考えを自分の言葉で表現する時間、生徒間で話し合いをする時間を多く取り入れていく。
英 語	○単語や場面に応じた英語を正しく書くことができるようにする。 (語彙力・書くこと)。 ○まとまりのある文を読み、情報・条件をもとに適切に応られるようにする（読むこと)。	○前の単元で学習した語句や英文をペアで練習する機会を毎授業設け、その内容を範囲とした小テストを定期的に実施する。小テストでは語彙力を問う問題とテーマ英作文を設定し、語彙力と「書くこと」の力を更に養う。 ・テストの習熟度を考慮して、アフタースクールと連携を図る。 ○各単元の読み物資料指導後に、その内容に関連したテーマについて考え、自分の意見や感想を英語で書いて表現する。 ・読解問題演習の充実と解き方の指導を綿密に行う。

第八中学校　実技教科　授業改善プラン

教科	日常の学習から みられる課題	授業改善の方策
音楽	○授業規律を徹底する。	○特に歌唱指導において「聴く」「考える」「表現する」の諸活動にそれぞれ集中できるよう、指示を明確にする。
	○共に考え認め合う力を高める。	○教え込む内容を精選し、生徒自らが考え話し合える場面を設定して多様な意見や方法があることに気付かせる。学習に有効なものであれば少数意見も取り入れ実践する。
美術	○基礎技能を確実に習得する。	○基本的な技能の習得を導入時に行い、授業のねらいを理解させてから本制作に取り組み、創意工夫への意欲を向上させる。
	○自己における課題を設定し達成できるようにする。	○具体的な評価の観点を予め生徒に伝え、繰り返し授業のねらいと共に、自己の目的達成について意識させる。
	○自他共に認め合う態度を高める。	○生徒同士の相互評価を多く取り入れ、互いの個性を認め合う環境をつくる。
保健体育	○授業規律を徹底する。	○整列・挨拶・準備体操・補強運動の一連の学習活動に規律ある行動を促す。
	○基礎体力を高める。 ○思考力を高める。	○運動の楽しさを実感させ、基礎体力の向上を目指す。 ・補強運動、３分間走、投擲動作を柱にして、授業の導入を図る。 ・ペア学習や班・チーム学習などを通して、言語活動を活発にし、思考力を向上させる。
技術・家庭	○互いを認め合う態度を高める。	○課題解決の場面において、答えは一つではないことを意識させてより適した解を求めて意見を交流する場面を設け、互いの意見を認め合い、取り入れ合うようにする。
	○社会･環境との関わりの理解を深める。	○技術を評価・活用する場面において、社会・環境との関わりを深めるために、積極的に最新技術の内容と関わらせる。また、自らの問題解決及びその過程をふり返り、改善・修正しようとする態度を育む。